宮浦石炭記念公園

1888 年に開坑した宮浦坑は、1968 年まで三池炭鉱の主力坑であった。 約 4,000 万トンの石炭を産出し、三池炭鉱で最も長く稼働した斜坑であった。 1924 年には、傾斜坑が元の垂直坑に取って代わり、断層末端の炭層が採掘可能となった。作業は困難であり危険でもあった。この坑道では、朝鮮人や中国人労働者、オーストラリア人やアメリカ人などの戦争捕虜が鉱山労働に従事していた。

現在、この場所は公園となっている。列車とプラットフォーム、そして斜坑の坑口は保存されている。1888 年に建てられたレンガ煙突は高さ 31.2 メートルで、上部直径 2.9 メートル、下部直径 4.3 メートルである。この煙突は 1998 年に国の有形文化財に指定された。公園のメタセコイアの木は、数百万年もの間に化石化しこの炭鉱から採掘された石炭と同じ種類の木である。

公園の下を通る線路は、1891 年に敷設された旧三池炭鉱鉄道の線路の一部である。線路の向こう側には、1889 年より三池炭鉱を所有する三井グループの三井化学の工場が建っている。